

学校法人新潟科学技術学園  
新潟工業短期大学  
機関別評価結果

平成 29 年 3 月 10 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 新潟工業短期大学の概要

設置者	学校法人 新潟科学技術学園
理事長	寺田 弘
学 長	長谷川 富市
A L O	鈴木 真人
開設年月日	昭和 43 年 4 月 1 日
所在地	新潟県新潟市西区上新栄町 5-13-7

<平成 28 年 5 月 1 日現在>

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
自動車工業科		120
	合計	120

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	自動車工学専攻	10
	合計	10

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

新潟工業短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成29年3月10日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成27年7月9日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和43年4月に自動車工学を教授する短期大学として開学した。建学の精神を「実学一体」とし、時代に合ったスローガンと解説を付して学内外の理解を深める努力をしている。自動車工学に関する専門の学術を教授するとともに応用能力及び豊かな教養と人格を涵養し、有用な実践力に富む人材を育成することを教育目的としている。その目的に基づいて自動車工学に関する理論と技術に関する授業を行い、二級自動車整備士国家資格取得に対応できる柔軟かつ応用力に富む技術者を養成することを目標としている。

自己点検・評価規程に基づき自己評価委員会を組織するとともに、全教職員がその重要性を認識して日常的に自己点検・評価に関与している。自己点検・評価報告書を毎年作成し、学内や全国の自動車短期大学及び関係機関へ配布するほか、ウェブサイトでも公表している。

学位授与の方針は学習成果に対応しており、自動車工学に関する知識・技術を習得することにより、学習成果をウェブサイト等により学内外に公表している。教育目的・目標及び学位授与の方針に対応させて教育課程を体系的に編成し、教養教育科目と専門教育科目を適切に配置している。企業及び卒業生にアンケート調査を実施し、学習成果の獲得状況の把握と点検に努めている。二級自動車整備士資格試験の合格率は高い。入学者に対する学力調査を行って、基礎学力が不足する学生に対する補習授業を実施している。

当該短期大学は、短期大学設置基準に定める教員数を充足しており、教員を適切に配備している。専任教員の採用・昇任の手続きは教員選考規程に基づいて行われている。助教以上の教員に研究室を与えている。教員の国内外の研修、国際会議出席等に係る規程を整備している。専任教員の研究活動を研究紀要、ウェブサイトで公表している。FD活動に係る規程は整備されており、その規程に基づいてFD委員会を設置している。

事務組織は規程に従い整備され、各部署の長の責任の下で業務を遂行しており、教員との連携も図られている。

校地、校舎面積は、短期大学設置基準に定める面積を満たしている。体育館、グラウン

ド、図書館を含めて、学生の教育・学習及び学園生活を支援する諸施設を適切に整備し、維持管理している。特に自動車整備技術等の育成に関する諸設備は充実しており、教員によって適切に管理されている。自衛消防隊の編成、避難訓練、適切なコンピュータセキュリティ対応等を行っている。

自動車整備技術等で用いる設備については、教員が適切な状態に維持管理している。教職員は全員がパソコンを学内 LAN に接続し、情報を共有している。

過去 3 か年の事業活動収支は、短期大学部門で支出超過であるが、学校法人全体では収入超過であり、余裕資金もある。教職員全員は、当該短期大学の経営状況等を認識している。

学校法人の管理運営体制は、理事長のリーダーシップの下で適切に機能している。理事長は、寄附行為に基づき、学校法人を代表して業務を総理し、理事会を招集して議長を務めている。理事長は、設置する二つの会議（「経営審議委員会」及び「学長・校長会議」）での協議内容を踏まえ、学校法人全体の方針を定め、学校法人の最終意思決定機関である理事会で決定している。

学長は、当該短期大学運営の最終責任者としてリーダーシップを発揮している。学長は教員個人調書と教育研究業績書を基に専任教員全員と一対一で面談し、当該短期大学の運営及び教育等について意見交換を行っている。教授会は、学校教育法で掲げる教学に関する諸事項等を審議している。理事会は、学校法人に係る重要事項等を審議・決定するとともに諸規程の整備等を行っており、かつ理事の職務の執行を監督している。

監事は、学校法人の財産状況及び業務状況を監査し、理事会及び評議員会に出席して意見を述べている。毎会計年度の監査報告書を作成し、期限内に理事会及び評議員会に提出している。また、監事研修会等に出席して監事業務に係る資質向上に努めている。

評議員会は、理事長を含め役員との諮問機関として適切に役割を遂行している。資産及び資金の管理・運営は安全かつ適正になされている。財務情報及び教育情報は速やかにウェブサイト上で公表している。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

### （1）特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

#### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

○ 建学の精神である「実学一体」にスローガンを付し、そのスローガンを定期的に点検

して時代のニーズに合わせて改めている。現スローガン「思いやりの心で『実学一体』の精神を実現しよう」を平成28年度から『実学一体』を修得し、地域社会に貢献しよう」に改めることにしている。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

### [テーマ A 教育課程]

- 入学予定者に対して、「入学前ゼミナール」として通信添削教育を実施し、学習の成果の把握と入学までの学習習慣の維持を促している。通信添削教育は、入学後の学習の基礎となる数学やクルマに関連する基礎的な知識と、クルマに興味を持たせる内容となっている。

### [テーマ B 学生支援]

- 自動車整備士資格取得に係る諸施設が充実している。また、自動車メーカー等の工場見学、講演会、自動車技術・整備セミナーを実施しており、これらを通して学生の学習への動機付けの高揚を図っている。

## 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

### [テーマ C ガバナンス]

- 監事機能の強化を図る観点から、監事監査規程を定め、「監事室」を設置して専任の事務職員を配置して監事監査計画に基づいた監査を実施している。

## (2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

## 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

### [テーマ A 人的資源]

- 学科の特性上、教員が国家試験等の指導に時間を割かれ、研究等に十分な時間を取れていないので、時間配分の工夫が望まれる。
- SD活動に関する各種セミナーに参加し資質向上に努めているが、SDに関する規程の整備が望まれる。

### [テーマ D 財的資源]

- 短期大学全体の収容定員の状況が低いので、充足率を上げるよう努力されたい。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神を「実学一体」と定めて教育理念を明示している。点検によって「実学一体」に時代に合ったスローガンと解説を付している。入学式における学長告辞やオリエンテーション時に建学の精神に関する解説を通して学生への周知を図っている。学則に規定する当該短期大学の目的及び学科の（教育）目的は、建学の精神に基づいており、印刷物やウェブサイト掲載により学内外へ表明されている。建学の精神、教育目的を基に学位授与の方針を定め、学生への周知を図っている。教育課程の検討・編成時に学習成果の評価とともに教育目的の点検を行っているが、PDCA サイクルに基づいて定期的な点検を行うことが課題となっている。

学習成果は学位授与の方針に示されている。学位授与の方針に基づき、各授業の到達目標を授業担当者が設定し、その内容を教務委員会が点検し確認している。授業担当者による成績評価結果を教務委員会が点検して全教員へ成績一覧を配付しており、教員は全学生の学習成果の獲得状況を共有している。自動車整備士資格試験の合格状況を学習成果の指標の一つとして、資格試験の合格状況を基に学習成果の点検を行っている。文部科学省及び国土交通省の関係法令等を適宜確認し、法令順守に努めている。多様な学生の受け入れにも積極的で、入学者の基礎学力を把握するために、入学直後に計算力等に関する基礎学力調査を行っている。卒業生が就職した企業に「企業向けアンケート」調査及び卒業生を対象とした「卒業生向けアンケート」調査を実施し、卒業生の学習成果の獲得状況の把握に努めている。学生の授業評価アンケート結果に基づいた授業の改善やFD活動による授業の充実に努めている。

自己点検・評価規程に基づき、自己評価委員会を組織して自己点検・評価を行っており、全教職員はその重要性を認識して日常的に自己点検・評価に関与している。自動車工学系の短期大学と訪問調査による相互評価を複数回実施している。自己点検・評価報告書を毎年作成し、学内や全国の自動車短期大学及び関係機関に印刷物を配布するとともにウェブサイト上でも公表している。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は学習成果に対応している。二級自動車整備士の国家資格取得を目指し

て、自動車工学と自動車整備技術に関する知識・技術を習得することを学習成果としており、ウェブサイト等で学内外に表明している。

教育課程は学位授与の方針に沿っており、自動車整備技術を含む自動車工学系、機械工学系及び電気工学系の専門教育科目群と教養教育科目群とで構成されている。単位の認定は、学則及び授業科目履修等に関する規程にのっとり、厳正に行われている。

入学者受け入れの方針は、建学の精神及び教育目的に基づき、自動車工学・自動車整備に関する技術者の育成を目的としており、入学者受け入れの方針として大学案内、入試要項等の印刷物のほか、ウェブサイトに掲載している。

学習成果としての二級自動車整備士資格試験の合格率は高く、地域社会に自動車整備士を供給することで地域に貢献している。

卒業生が在籍する企業を対象に、卒業生の仕事に対する評価や教育の充実を望む分野等を調べるための「企業向けアンケート」と、卒業生が教育や学生生活をどのように感じていたかを調べるための「卒業生向けアンケート」を実施し、学習成果の点検・見直しに活用している。また、学生による「授業評価アンケート」を毎年実施し、次年度以降の授業改善に生かしている。

学生の図書館利用を促進するために図書館利用ガイダンスを行っている。情報科学演習室を授業時間以外に常時開放して、学生によるインターネットを活用しての就職活動や自己学習等に供している。また、学生同士で気兼ねなく教え合える場として、授業等で使用されていない教室を「学習ネットワーク室」として活用している。

クラス担任制を採用している。クラス担任は、オフィスアワーの時間帯に学生の相談に応じている。保健室には看護師が常駐して学生の健康管理に努めている。学生食堂や売店を設置するなど、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。キャンパス内に学生用駐車場・駐輪場を整備している。地方自治体等による奨学金制度のほか、当該短期大学独自の奨学金制度により学生に対する経済的支援を行っている。キャリアセンターにキャリア支援室及び就職支援室を設置して、クラス担任と密接な連携の下に学生の就職活動や進学を支援している。入学試験は多様な入試区分の下、規程にのっとり公正かつ正確に実施している。入学者に対するオリエンテーションを入学式の翌日に実施し、学習、学生生活を送るに当たっての諸注意等を説明している。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、短期大学設置基準に定める教員数を充足しており、「自動車整備士養成施設の指定等の基準」に基づいた教員を適切に配備している。専任教員の職位は教員選考規程に従っている。教員の採用及び昇任は適正に行われている。専任教員の各研究活動を研究紀要、ウェブサイトで公表している。助教以上の教員に研究室が与えられているが、国家試験対策や補習授業のため、研究に費やす十分な時間が取れていない。教員の国内外の研修、国際会議出席等に関する規程も定めている。FD活動は、FD委員会規程に基づいて委員会を設置して活動している。

事務組織は、事務組織規程及び関連規程に従い、各部署の長の責任の下で業務を遂行しており、就業に関する諸規程も整備され、適正に管理されている。なお、SD活動に関す

る各種セミナーに参加し資質向上に努めているが、SDに関する規程が整備されていない。

校地、校舎面積とも短期大学設置基準を充足しており、体育館やグラウンド等を整備している。自動車整備に係る自動車工学の理論と技術を学生が学ぶ上で充実した実験・実習室等を整備しており、教室には視聴覚設備を設置している。購入図書選定及び廃棄は、図書収集及び管理規程に基づき管理している。図書館と情報センターを設置しており、学生から満足度において高い評価を受けている。物品管理規程等を整備して諸設備の維持管理をしている。自動車整備技術等で用いる設備については、教員が適切な状態に維持管理している。教職員は全員がパソコンを学内 LAN に接続し、情報を共有している。コンピュータセキュリティについては、ファイアウォール等をもって対応している。自衛消防隊を編成し、全学生及び全教職員が参加する避難訓練を実施している。

学校法人全体の過去 3 年間の事業活動収支は、健全に推移しており、余裕資金がある。短期大学部門の事業活動収支は支出超過である。定員未充足の状態が続きその影響が支出超過に表れている。収容定員の充足率をあげるように努力されたい。教育研究経費比率は適切である。経営改善計画を策定し、当該短期大学の将来像、強み、弱みを分析し、改善対策を検討している。経営状況等については、ウェブサイトに掲載のほか、教授会で報告されている。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、寄附行為に基づき学校法人の業務を総理し、理事会を招集して議長を務めている。また、毎会計年度終了後 2 か月以内に監事の監査を受け、理事会で承認された決算・事業実績を評議員会に報告し意見を求めている。理事会は、理事の職務の執行を監督するとともに、学校法人に関する重要事項の審議や規程の整備等を行っている。私立学校法に基づき理事の選任並びに情報公開を行っている。

学長は、学長選任規程に基づき選任され、当該短期大学運営の最終責任者としてリーダーシップを発揮している。学長は、月一回を基本に教授会を開催し、学校教育法に掲げている教学に関する諸事項について審議している。全教員をもって教授会を構成し、かつ事務職員も陪席しているため、教授会の審議状況や当該短期大学が抱えている課題等を教職員全員が理解している。

監事は、私立学校法及び寄附行為に基づき、理事会で選出された候補者から、理事長が評議員会の同意を得て選任している。毎会計年度、公認会計士と連携を図りながら、学校法人の財産状況及び業務状況に関する監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会へ提出し報告している。また、文部科学省主催の「監事研修会」に出席し、監査業務に係る資質向上に努めている。学校法人は監事室を設置し、専任事務職員を配置して監査業務の強化に努めている。

評議員会は、私立学校法及び寄附行為に基づき、理事定員の 2 倍を超える数の評議員をもって組織している。評議員会は適宜開催され、理事長を含め役員の諮問機関として適切に運営されている。

学校法人の事業計画と予算は、各学校の経営部門の意向を集約した上で評議員会の意見を聴き、理事会で承認している。資産及び資金の管理と運営は、適切な会計処理に基づい

て安全かつ適正に管理されている。財務情報及び教育情報は、速やかにウェブサイト上で公表されている。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 職業教育の取り組みについて

### 総評

当該短期大学の職業教育の目的・目標は、自動車工学とそれに関連する機械工学や電気工学分野の学問を教授し、自動車整備技術を習得して社会に貢献する人材を育成することである。

ほとんどの学生は自動車整備士の資格を取得し、専門職として整備関係の企業等に就職している。資格取得に向けた教育は、自動車工学・自動車整備技術教育を担当する教員と自動車整備実習を担当する教員が行い、職業教育の実施体制は整っている。

入学予定者に対して、「入学前ゼミナール」として数学や理科に関する基礎的な計算問題や、入学後に学ぶ自動車技術に関する基礎的な課題等の問題を送付する通信添削教育を実施して、入学後に学習する専門科目との円滑な接続を図っている。「入学前ゼミナール」には、解答欄のほかに入学後の学生生活全般に関する質問を随時メールで受け付けることができるように、メールアドレスとQRコードを記載している。解答の添削返送とともに、質問に対して即時回答を行って、入学前の不安解消に努めている。

教育目的・目標の一つである二級自動車整備士資格試験の合格率は、教育効果を測る量的データとして改革・改善に用いられる。ガソリン自動車整備士、ジーゼル自動車整備士ともに試験の合格率は90パーセント以上である。この結果を参考に、次年度の教育計画を策定して全教員の協力により実施している。この計画の進捗状況を模擬試験を実施して観察し、適宜改善を行いながら学習成果の向上に努めている。

一方、教育効果の質的評価として企業における当該短期大学卒業生の勤務等の評価を企業訪問時における聴取やアンケート調査を行って分析している。平成26年度に卒業生の在籍する企業を対象に、卒業生の仕事に対する評価等を調べる「企業向けアンケート」を実施した。調査の結果、企業からは比較的良い評価を得ていることが明らかになった。平成27年度においては、卒業生から見た当該短期大学の教育内容等について「卒業生向けアンケート」を実施した。調査の結果、卒業生からはおおむね良好な評価を得ることができた。今後も定期的に企業や卒業生にアンケート調査を行い、学習効果の向上に活用する組織的な取り組みを検討する。

## 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 自動車整備士資格試験の合格率は、教育効果を測る量的データとして改革・改善に用いている。二級自動車整備士資格試験において、ガソリン自動車整備士、ジーゼル自動車整備士ともに合格率はおおむね 90 パーセント以上であり、ほとんどの学生が専門職として整備関係の企業等に就職している。
- 入学予定者に対して、入学後の学習の動機付けや基礎学力向上のために、「入学前ゼミナール」として通信添削教育を行っている。課題は数学や理科に関する基礎的な計算問題、入学後に学ぶ自動車技術に関する基礎的な内容であり、入学後に学習する専門科目との円滑な接続を図っている。
- 平成 26 年度に卒業生の在籍する企業を対象に、卒業生の仕事に対する評価等を調べる「企業向けアンケート」を実施した。平成 27 年度においては、卒業生からみた当該短期大学の教育内容等について「卒業生向けアンケート」を実施している。

## 地域貢献の取り組みについて

### 総評

当該短期大学は、自動車工学に関連する学問分野、自動車整備技術に関する人的資源及び技術的資源を有しており、生涯学習委員会を設置して、これらの資源を活用した公開講座や生涯学習支援等、地域社会への貢献を積極的に行っている。平成 7 年度から、公開講座「明日へのテクノロジーセミナー」を近隣の自動車関連・製造業関連企業に従事する技術者・経営者及び一般市民を対象に毎年 11 月に開催し、自動車工学に関する最先端の技術情報を地域社会に提供している。平成 27 年度は「これからの車について考える」を総合テーマとして実施した。

地域貢献の一環として、地域における生涯学習の一助となるよう科目等履修生制度を設け、授業を公開している。小学校・中学校の学校訪問を受け入れ、高等学校への出張授業も実施している。地域産業の活性化を図る活動として、新潟県次世代自動車産業振興協議会と連携し、平成 25 年度から県内の自動車部品メーカーを対象に「自動車構造／機能セミナー」を実施している。近年、自動車整備のメカニックを目指す高校生は減少傾向にある。当該短期大学では、「クルマ」とそれに関連する技術に小さい頃から興味を持ってもらう目的で、平成 24 年から公益社団法人自動車技術会関東支部と連携し、小学校高学年を対象にした「くるま未来体験教室」を毎年実施している。また、平成 25 年度より小学校低学年を対象とした「小学生ソーブボックスダービー」を NPO 法人日本ソーブボックスダービー (NSBD) とネットヨタ富山株式会社の協力を得て、当該短期大学で開催している。平成 27 年度は「モックカー (模型工作) 教室」を、学外の小学校でのボランティアイベントや県立自然科学館でのイベントプログラムとして実施している。

平成 27 年度、地域の小学校 PTA が開催するボランティアイベント「ふれあい広場」に、当該短期大学教員がスタッフとして参加した。また、海岸清掃のボランティア活動に参加している教職員もいるが、学生の参加は少ない。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 自動車工学に関する最先端の技術情報を地域社会に提供する公開講座「明日へのテクノロジーセミナー」を近隣の自動車関連・製造業関連企業に従事する技術者・経営者及び一般市民を対象に毎年11月に行っている。
- 平成25年度から地域産業の活性化を図る活動として、新潟県次世代自動車産業振興協議会と連携し、県内の自動車部品メーカーを対象に「自動車構造／機能セミナー」を実施している。
- 平成24年から公益社団法人自動車技術会関東支部と連携し、「クルマ」とそれに関連する技術に小さい頃から興味を持ってもらう目的で、小学校高学年を対象にした「くるま未来体験教室」を毎年実施している。